

日本社会科教育学会 第76回全国研究大会(神奈川大会)のご案内(1次案内)

日本社会科教育学会会長 唐木清志
全国研究大会実行委員長 重松克也

第76回全国研究大会を開催致します。現在、国家主義の台頭、急速なグローバル化、終結が見通せない国際紛争の勃発、「ポスト真実時代」とも称される高度情報化社会の進展等々、社会の多元化が様々な形で社会的課題として表出しています。こうした中で、社会科教育の果たす役割はますます大きくなっているといえます。また次期学習指導要領改訂に向けて文部科学省中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」(2025年9月27日)が出され、深い学びを具体化することはこれまで以上に喫緊の課題となっています。こうした中で今回の大会では、主題を「多元化社会における社会科教育のあり方」と設定しました。

シンポジウムでは様々な社会科教育研究・実践の中で特に Education for Sustainable Development (以下、ESD と略記) に焦点づけて、これまでの成果と課題を議論し、今後の社会科教育のあり方を展望する上での示唆を得たいと考えています。先行きの見通せない社会の中で生きていく子どもたちにとって必要な社会科のあり方について、皆さんと考えたいと思います。

1. **大会主題** 多元化社会における社会科教育のあり方
2. **期 日** 2026(令和8)年11月14日(土)・15日(日)
3. **会 場** 横浜国立大学教育学部棟
4. **主 催** 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
5. **後 援** 神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会(申請予定)

6. 日程

第1日目 11月14日(土)

8:00	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:15
受付	自由研究発表会 I	昼食 評議員会	シンポジウム	休憩		総会

第2日目 11月15日(日)

8:00	9:00	12:00	13:00	16:30
受付	自由研究発表会 II	昼食	課題研究発表会	

7. シンポジウム

- テ ー マ** : 日本の社会科教育における ESD 実践の成果と課題
コーディネーター: 鈴木 允 (横浜国立大学) 永田 成文 (広島修道大学)
コメンテーター: 井田 仁康 (立正大学、筑波大学・名誉)
シンポジスト: 押井 那歩 (東京学芸大学) 池口 明子 (東京都立大学)
神野 幸隆 (国士舘大学) 祐岡 武志 (阪南大学)

〔趣旨〕

2005年からはじめた「国連持続可能な開発のための教育の10年」以降、持続可能な開発のための教育の取り組みは世界各地で続けられています。日本の社会科教育の中でも、この20年ほどの間にESDの概念が広く浸透し、現行学習指導要領に基づく各校種の検定教科書では、「持続可能な開発目標(SDGs)」が取り上げられるようになりました。

2026年現在、次期学習指導要領の改訂に向けた動きが進んでいます。予測不能で混迷を極める現代社会において、持続可能な社会のあり方を考えることの意味はますます大きくなっています。この間、数多くのESD実践が、様々な価値観が共存する多元的な社会の構築に貢献してきました。また、ESD実践に関する研究も数多く蓄積されてきました。今日的な文脈の中で、これまで日本の社会科教育の中で取り組まれてきたESD実践の成果や課題を改めて捉え直し、今後のあり方を検討していく必要性が高まっています。

本シンポジウムでは、登壇者の先生方それぞれの立場からみた、これまでの社会科教育におけるESD実践の成果と課題についてご報告いただき、それらをもとに、今後のESD実践が目指すべき方向性について協議したいと思います。

8. 課題研究

I. 高度情報化社会における事実の探究をいかに指導するか

コーディネーター: 駕原進(愛媛大学)、中平一義(東洋大学)

〔趣旨〕

社会科教育はこれまで、いわゆる情報・記号操作の学習に留まることなく、深い学びの大きな基盤である事実認識の育成を重視してきました。ところが昨今、高度情報化社会の到来とともに誤情報やフェイクニュースが児童生徒の日常生活に浸透しています。これまで以上に、事実を見極める力の指導の必要性はさらに高まっています。今、どのようなリテラシーが必要なのかについて情報リテラシー、ニュースリテラシー、メディア情報リテラシー等々の知見を踏まえつつ、社会科での指導のあり方について考えたいと思います。

II. 単元づくりにおける「高次の資質・能力」を育む概念とは何か、いかに設定するか

コーディネーター: 江間史明(山形大学)、小谷恵津子(玉川大学)

〔趣旨〕

文部科学省では次期学習指導要領を「高次の資質・能力」を育む方向性で検討されています。現実社会の複雑化している社会的事象やその捉え(言説)について汎用性が高く、かつ「見方・考え方」も育む概念(用語等)形成がますます求められます。これまで社会科は生きて働く知、転移性の高い知を戦後一貫して追求してきました。その蓄積における成果と課題を踏まえて、「高次の資質・能力」を育む知(とりわけ概念を中心に)の具体的な内実や設定の在り方について考えたいと思います。

III. 単元を貫く問いをいかに設定するか

コーディネーター: 磯山恭子(国立教育政策研究所)、中本和彦(龍谷大学)

〔趣旨〕

“指導と評価の一体化”と連動した“単元をつらぬく問い”をいかに具体化するかという課題があります。教科内容のみに傾斜させると児童生徒の主体的な学びの保障が希薄化してしまうことがあります。主体的な学びを重視した問いだと、質の高い深い学びを育みにくくなる場合もあります。社会科が常に抱えてきた課題とも言えます。教科内容と学習者との結節点をもたらす問いはいかなる設定をすれば良いのかについて考えたいと思います。

IV. 地域のダイバーシティに社会科教育（学研究）はいかに向き合うべきか？

：この地域に生きるわたしたち〈子ども・教師・地域住民〉と市民性

コーディネーター：星 瑞希（北海道教育大学札幌校）、齊藤 仁一朗（横浜国立大学）

〔趣旨〕

近年、「ダイバーシティ」への社会的関心の高まりを背景に、社会科教育においても「ダイバーシティ」を掲げた実践や書籍が増加している。これらの議論では、国籍、人種・民族、性別、性的指向、性自認、障がいといった属性的な「カテゴリー」が主として取り上げられることが多い。こうしたカテゴリーに着目することには一定の意義がある。

しかしながら、社会科教育が実践される教室や学校、さらにはそれらを取り巻く地域社会そのものもまた多様な存在である。そこでは、中央—地方、中心—周縁といった（コロニアルな）権力関係が、社会事象の現れ方だけでなく、地域住民の生活意識や市民意識にも重層的に作用している。また、学校教育において育成すべき資質・能力や市民像が中央集権的に規定されていることも指摘されている。このことは、地域に固有の社会的文脈や望ましい市民像、さらには地域固有の課題を、社会科教育（研究）の中でどのように位置づけるべきかという問題を改めて提起している。

以上を踏まえ、本課題研究では、地域における「ダイバーシティ」に社会科教育がいかに向き合うべきかを検討する。その際、中央—地方、中心—周縁の関係に着目しつつ、ポストコロニアルな視点から社会科教育学研究の可能性を探索する。

V. 小学校教員養成における社会科の専門性のコアを探る

コーディネーター：熊田 禎介（宇都宮大学）・阪上 弘彬（千葉大学）・樋口 雅夫（玉川大学）

〔趣旨〕

昨年度の本課題研究では、教員不足など教員養成に関わる喫緊の状況を踏まえ、非専攻者を含む小学校教員養成における社会科の専門性育成の方向性について議論を展開しました。その結果、養成段階（特に大学、短期大学）の限られた教育課程の中でどのような能力を重点的に育成すべきかという、専門性の核（コア）を明確化することの必要性が浮き彫りとなりました。そこで本課題研究では、昨年度の議論をさらに発展させ、小学校教員が備えるべき社会科の専門性のコアとは何かを理論的・実践的に探り、今後の教員養成課程の在り方について議論を深めてみたいと思います。

9. 大会参加の申込みについて

※ 本学会は免税事業者のため、インボイス登録番号はございません。

(1) 大会参加費（不課税）

一般会員：3,500 円(事前登録)／4,000 円(当日受付)

学生・院生会員：3,000 円(事前登録)／3,500 円(当日受付)

非会員：4,000 円(事前登録・当日受付)

(2) 昼食

大会両日ともにお弁当（1,000 円、税込 8%）を事前予約にて販売します。大学構内近くには

スーパー等がございますが、急坂の登り降りを余儀なくされますので、ご利用ください。

(3) 大会参加の事前登録について

①大会参加の事前登録は、**6 月 1 日(月)**からです。本学会 HP の【**大会参加(事前登録)申込フォーム**】で事前登録と参加費の支払い(クレジットカード決済または銀行振り込み)を行ってください。事前登録と参加費の支払いの両方を終えて大会参加の申込が完了します。片方だけでは事前登録となりませんので、ご注意ください。

- ②登録終了後、「受付番号」が自動送信されます。自動送信メールが送られてこない場合は、申し込みフォームに記載されている連絡先までお問い合わせください。
 ※参加登録受付業務は株式会社コムラに委託しております。なお、事前参加申込受付期間終了後の参加キャンセルおよび返金への対応はいたしかねます。
- ③大会参加事前登録の締切は 9 月 14 日(月)です。事前登録期間が終了した後の参加キャンセルは、大会実行委員会 (E-mail: jass76kanagawa@gmail.com) に直接ご連絡ください。
- ④事前登録をされる場合、緊急時の連絡先メールアドレスをご登録ください。全国大会の中止等、緊急時の連絡をいたします。
- ⑤事前登録をされた方には、領収書・名札・発表論文集を、11 月初旬に、登録いただいた住所へ発送いたしますので入力に誤りがないようご注意ください。当日受付の方には大会当日に受付にてお渡しします。

10. 自由研究発表の申込み、シンポジウム・課題研究の要旨提出について

- (1) 自由研究発表の申込者および大会当日の発表者は会員に限ります。自由研究発表は、1 人当たり 2 つ(単独 1 件かつ連名 1 件、または連名 2 件)までといたします。シンポジウムと課題研究の発表はこれに含みません。なお、自由研究発表日時等の希望にはお応えできない場合もあります。
- (2) 自由研究発表の申込みは、本学会 HP の【自由研究発表申込みフォーム】にて行います。申込は 6 月 1 日(月)から開始します。締切は 7 月 17 日(金)です。メールの添付ファイルあるいは FAX 等では受け付けません。
- (3) 共同研究として複数の方が自由研究発表を申込みされる場合、申込みを行う代表者は会員である必要があります。非会員が含まれていても、連名で名前が記されている方はすべて参加申込および参加費の支払いが必要です。【大会参加(事前登録)申込フォーム】より個々に参加申込みをお願いします。
- (4) 『大会発表論文集』の原稿は 7 月 20 日(月)から受け付けます。締切は 8 月 26 日(水)です。自由研究は 2p、課題研究・シンポジウムは 2p または 4p です。受付は本学会 HP の【大会発表論文集原稿アップロードフォーム】で行います。メールの添付ファイルあるいは FAX 等では受け付けません。様式は昨年度と同じです。本学会 HP で確認してください。
- (5) シンポジウム・課題研究の報告者の方も、本学会 HP の【大会発表論文集原稿アップロードフォーム】に要旨をアップロードしてください。自由研究発表と同じく、締切は 8 月 26 日(水)です。
 要旨ファイルの件名に【シンポジウム】【課題研究○】と入れてください(○は課題研究の I~V の番号)。
- (6) 自由研究発表の日時は、大会プログラム(2 次案内、9 月下旬郵送および大会 HP)に掲載します。
- (7) 自由研究発表の発表時間は 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。

【開始日・締切日一覧】

- 参加費振り込み、大会参加事前登録の開始：6 月 1 日(月)本学会 HP の「申込フォーム」
- 自由研究発表申込みの開始：6 月 1 日(月)本学会 HP の自由研究申込
- 自由研究発表申込みの締切：7 月 17 日(金)
- 『大会発表論文集』の原稿の受付開始：7 月 20 日(月)
- 『大会発表論文集』の原稿の締切：8 月 26 日(水)
- 参加費振り込み、大会参加事前登録の締切：9 月 14 日(月)

11. 問い合わせ先

住所: 〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2 横浜国立大学教育学部

日本社会科教育学会第 76 回全国研究大会実行委員会

E-mail: jass76kanagawa@gmail.com

※お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします。